

小樽港第3号ふ頭及び 周辺開発の歴史



第3号ふ頭に停泊する飛鳥Ⅲ

港湾関連三賞受賞

小樽港では、第3号ふ頭とふ頭基部周辺において、人の賑わいを創出する再開発事業が進められています。昨年は、第3号ふ頭に大型クルーズ船専用岸壁や国際クルーズ船ターミナルが完成し、小樽国際インフォメーションセンターも整備されました。この8月1日には小樽港観光船ターミナルが竣工し、新たに栈橋も整備され、供用開始されました。現在、令和8年春を目指して、イベント広場などの整備が進められています。

これら再開発は、小樽市が平成26年に公表した『第3号ふ頭及び周辺再開発計画』に基づいて進められているもので、同計画では、第3号ふ頭とふ頭基部周辺を「国際旅客船埠頭と観光船乗場を核として地区全体を賑わいある国際交流空間とする」方針が示されました。

当所では、平成23年に「港湾振興プロジェクト」を発足し、小樽港の活性化について議論・検討してきましたが、中でも第3号ふ頭とふ頭基部周辺に人流による賑わい形成を進める再開発を最優先とすべきことを市に提言したことが契機となり、平成26年の市の再開発計画策定に繋がりました。その後、同プロジェクトは「港を甚に」

をコンセプトに、コンテナカフェによる社会実証実験事業や「みなとオアシス」導入のためのシンポジウムの開催など、港の賑わい形成に取り組み、これらの活動が評価され、本年1月に全国商工会議所きらり輝き観光振興大賞「優秀賞」を受賞しました。また、ほぼ同時期に、市も第3号ふ頭におけるクルーズ振興や再開発に対し、「ポート・オブ・ザ・イヤー2024」「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2024特別賞」を受賞しており、これら港湾関連の三賞受賞を記念して8月9日に新たな観光船ターミナルにおいて記念式典、シンポジウム、帆船「海王丸」の一般公開などを実施しました。



港湾関連三賞受賞記念式典